

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 しんがくどう宮崎

公表日 令和8年3月23日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	個室などあり療育の環境として良好	利用人数と活動内容に応じて、部屋や個室を適切に使い分けます。 集団活動と個別活動が安全に行えるよう、空間の使い方を継続して見直します。 今後も療育に適した環境が維持できるよう、定期的に環境確認を行います。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	コンプライアンス部会でも検討できている	利用児童数や特性に応じた配置が継続できるよう、勤務体制を調整します。 活動内容や支援度に応じて、必要な場面で重点的な配置を行います。 コンプライアンス部会等でも継続的に配置体制を検討します。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	トイレや、手洗い場の数などがあってよかった 昨年度より視覚支援を増やし、部屋移動や配車が視覚化された。	視覚支援や表示を継続し、子どもにわかりやすい環境づくりを進めます。 部屋移動や活動の流れがさらに理解しやすくなるよう、掲示や視覚情報を工夫します。 障害特性に応じた環境調整を継続的に見直します。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	湿度の調整ができるようになるという。	清掃や整理整頓を継続し、快適に過ごせる環境を維持します。 室温・湿度管理についても確認し、季節に応じた環境調整を行います。 活動内容に応じて、落ち着ける空間と動ける空間の使い分けを工夫します。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0		必要時に個別空間を使えるよう、引き続き柔軟な環境調整を行います。 子どもの情緒面や集中面に応じて、適切に個別対応の場を確保します。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	日々のミーティングや月一回の全体ミーティングにて振り返りや情報共有をしている。	日々のミーティングや全体会議を活用し、目標設定と振り返りを継続します。 全職員が意見を出しやすい形で、改善点を共有できる場を整えます。 振り返り内容を具体的な支援改善につなげます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	実施されているかが分からない	保護者評価の結果を職員全体で共有する機会を明確に設けます。 回収後の集計結果や改善方針を職員に周知し、業務改善につなげます。 保護者の意見を年間の改善計画に反映できるよう整理します。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0		引き続き会議や面談等で職員の意見を把握し、改善に活かします。 小さな課題でも共有しやすい雰囲気づくりを行います。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5	実施されているかが分からない	第三者評価の実施状況や必要性について、事業所内で整理・共有します。 今後の導入可能性や代替的な点検方法を検討します。 外部からの視点を取り入れ、業務改善に活かせる仕組みを検討します。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	研修に関してはもう少し機会があるとさらに自己研鑽に繋がります 研修の案内が定期的上がっている。 次年度に行われる研修内容を明確にする。	年間研修計画を明確にし、職員が見通しを持てるようにします。 外部研修・内部研修ともに参加しやすい体制づくりを進めます。 研修後の共有機会を設け、学びを事業所全体に還元します。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0		作成・公表している支援プログラムについて、職員全体への周知を徹底します。 支援内容と実際の療育との整合性を継続的に確認します。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	担当制で細かくみることができ、セラピストの協力もある。	担当制や専門職連携を活かし、引き続き丁寧なアセスメントを行います。 保護者ニーズと日々の様子の両面から、客観的な計画作成を継続します。

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0		計画作成時に支援に関わる職員の意見を反映しやすい仕組みを整えます。 児童発達支援管理責任者だけでなく、現場職員も参加しやすい検討の場をつくります。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0		支援計画を職員が確認しやすいよう共有方法を整理します。 日々の支援が計画に沿っているか、ミーティング等で確認します。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	関わり方についてわからない時もあるので共有できる機会があるとよい	支援方法に迷うケースについて、相談・共有の機会を増やします。 標準化されたツールによる評価と日々の観察記録を合わせて活用します。 困り感のあるケースについて、専門職も含めたケース共有を行います。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		本人支援・家族支援・移行支援・地域連携の視点を継続して計画に反映します。 職員にも各支援項目の意図が伝わるよう共有を行います。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2	悩んだ時のフォローアップは可能	活動立案に迷った際にフォローを受けやすい仕組みを整えます。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	様々な職種職員の関わりや、日々の情報収集で新しい活動に取り組んでいる。	多職種の視点や日々の情報収集を活かし、新しい活動を取り入れます。 成功した活動事例を共有し、支援の幅を広げます。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0		子どもの特性やその日の状態に応じて、個別と集団のバランスを調整します。 計画と実際の支援内容が一致するよう見直しを継続します。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	朝の時点で打ち合わせは難しいが、必要な情報共有を行っている。翌日が不規則な場合は、前日のミーティング時に共有している。	当日の朝に十分な打ち合わせが難しい場合は、前日共有や記録で補います。 役割分担や留意点を事前に確認できる仕組みを整理します。 イレギュラー対応がある場合は、事前共有をより徹底します。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	ミーティングなどで振り返る機会があり良い	ミーティングでの振り返りを継続し、気づきを支援改善につなげます。 その日の課題や成功例を共有し、翌日の支援に活かします。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	日々、連絡帳が記録として残っており、変わった様子は日誌などで記録し共有している。	連絡帳や日誌の記録を継続し、支援の検証材料として活用します。 変化や気づきがあった際は、記録に残し、職員間で共有します。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		定期的なモニタリングを継続し、必要に応じて計画を見直します。 日々の記録と保護者の意見を見直しに反映します。	
	関係	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0		子どもの状況を理解した職員が会議へ参加できるよう調整を継続します。 会議内容を事業所内に持ち帰り、支援へ活かします。
		25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	さらに連携できるといい	保健・医療・福祉・教育等との連携をさらに深めます。 必要なケースについては早めに関係機関と情報共有を行います。 連携先や連携方法を職員間でわかりやすく整理します。
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	並行通園などの利用が増えてきた必要な児童は園に訪問し、様子を伺い情報共有をして連携を図っている。	並行通園児について、園や学校との情報共有を継続します。 必要場合は訪問支援等も活用し、相互理解を深めます。 移行支援の視点を日々の支援に取り入れます。	
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	担当者会議などさらに参加機会が増えるといい	担当者会議や情報共有の場に参加できる機会を増やせるよう調整します。 就学先との連携内容を整理し、移行が円滑になるよう努めます。	

機 関 や 保 護 者 と の 連 携	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3		必要に応じて支援センターへ相談し、助言を受けられる体制を整えます。 スーパーバイズを受ける機会について検討します。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	交流の機会を考えている	無理のない範囲で地域交流の機会を検討します。 子どもの安全や特性に配慮した交流方法を考えます。 実施可能な活動から段階的に取り入れます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	面談や担当者会議の他、送迎時にも日々の様子をお伝えしている。	送迎時や面談、担当者会議等での情報共有を継続します。 保護者が相談しやすい関係づくりを大切にします。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1		家族向けの情報提供や研修の機会を継続・充実させます。 参加しやすい方法や内容を検討します。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0		運営規程や支援内容、利用者負担等について引き続き丁寧に説明します。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		計画作成時には、こどもや家族の思いを丁寧に確認する機会を継続します。 子どもの最善の利益を優先した支援計画作成を行います。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0		支援計画をわかりやすく説明し、十分な理解を得たうえで同意をいただきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0		子育てや発達に関する相談に継続して応じ、必要な助言を行います。 面談以外でも相談しやすい環境づくりを進めます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	新年度の始まってから保護者会ができてよかった	保護者会等の交流機会を継続し、参加しやすい形を工夫します。 きょうだい児への支援についても、今後の実施可能性を検討します。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		相談窓口や対応体制の周知を継続します。 相談があった際は、迅速かつ丁寧な対応を徹底します。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	Instagramを定期的に更新している。	通信、SNS、ホームページ等を活用し、活動内容や予定を継続して発信します。 情報発信の方法を整理し、見やすく分かりやすい発信を心掛けます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		個人情報の取扱いについて、引き続き適切な管理と職員周知を行います。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		障害特性や家庭状況に応じた伝え方を意識し、丁寧な情報伝達を行います。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5	避難訓練などできるとよい	地域とのつながりを意識し、実施可能な交流や周知方法を検討します。 避難訓練や行事等を通じた地域との接点づくりを検討します。
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	よりわかりやすく伝えられるとよい	各種マニュアルの内容を職員・保護者に分かりやすく伝える工夫を行います。 想定訓練の内容や実施状況を周知できるようにします。	

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0		BCPIに基づいた訓練を継続し、非常時対応力の向上を図ります。 実施後は振り返りを行い、改善につなげます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0		服薬、既往歴、発作対応等の情報確認を継続し、職員間で共有します。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		医師の指示書に基づいた対応を徹底します。 指示内容や対応方法を職員全体で再確認する機会を設けます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		安全計画に沿った研修・訓練を継続し、安全意識の向上を図ります。 日々の支援の中で安全確認を徹底します。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0		安全計画に基づく取り組み内容を、保護者にわかりやすく周知します。 訓練や安全対策の実施状況も伝えていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	毎日のミーティングで共有している。	毎日のミーティングでの共有を継続し、再発防止策の検討を行います。 小さな事例も共有しやすい体制を維持します。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		虐待防止研修を継続し、支援の振り返りを行います。 不適切支援の予防につながる職員間の声かけや確認を大切にします。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0		やむを得ず身体拘束を行う場合の基準や手順を職員間で共有徹底します。 事前説明・同意・計画記載を引き続き適切に行います。